

言語を自然科学的に分析する

言語教育情報研究科 M2 SEO Mincheol

● 生成文法 (Generative Grammar) における言語



ある言語の母語話者が、その言語について持っている知識

言語は、人間という種だけが持つものであり、(脳に何らかの障害がない以上) 誰もが獲得することのできる均質的なものである。(生成文法の) 研究者は、母語話者が母語について持っている知識を探究する。それを通して、人間の心・脳の理解を目指す。

Linguistic competence

Linguistic performance

母語話者が発話をするときにどもからといって、その人の「言語能力」が、他の母語話者に比べて劣っているわけではない。それは単に「言語遂行」の問題である。生成文法では、前者を主たる研究対象とする。

● 外国語学習における言語



ある言語の文法書と辞書に盛り込まれているもの

1. 言語とは何か?

2. 言語研究の方法

Noam Chomsky (1928-)

1950年代後半、言語学は自然科学的な研究方法を用いるようになる。



水とは何か?

水は生命の源



言語とは何か?

言語は意思疎通のための道具

この答えにおける「水」や「言語」は漠然としている。自然科学的な研究方法を用いるためには、「水」や「言語」を科学的な研究対象として捉える必要がある。そのため、チョムスキーは「内的言語」と「外的言語」に区別することを提案し、前者を科学的な研究対象として捉える必要があると唱えた。

母語話者が自分の母語に対して、何かを知っていることは確かである。そのような母語話者が、外国人に自分の母語を正確に伝えたり、教育するのは不可能である。もし、そのようなことが可能だとしたら、昨今のような外国語教育は存在しなかったはずであり、外国語学習で苦労することもないはずである。

Mind and Brain

3. 言語研究の味見



まずは(既存の文、もしくは研究者によって作られた)文を観察する。非文の場合、文頭にアスタリスクを付ける。

- ① 太郎が言語学概論を受講した。
- ② 太郎が言語学概論を受講をした。
- ③ *太郎が言語学概論を受講がした。

①と②はいいのに、③はなぜよくないのか? これらの文の間には、何かしらの原理が働いているのだろうか? それは、一般化できないのだろうか?



I have a theory.

①②③の間には「受講」の後に助詞があるかないか、という差が見られる。そして、助詞がある場合はその種類が問題となっている。これらを根拠に、漢語サ変動詞が文の述語の場合は、漢語と「する」の間に「対格(ヲ)」を挿入することはできるが、「主格(ガ)」を挿入することはできない、と一般化することができる。

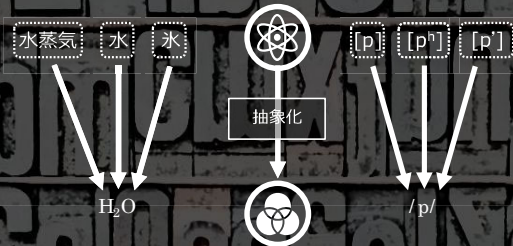
● 国際音声記号の多言語版作成



International Phonetic Alphabetは、世界中にある多様な言語の音を数十種類の記号を用いて転写することを可能にする。数学や化学で色々な記号や式を使うように、言語学では、このように予め用意されている音声記号を使って、人間が発する言語音を表記する。身近なところでいうと、英語をはじめとする外国語の辞書において、これらの記号の一部を目にすることがある。研究会ではIPAの多言語(英日韓)版を作成し、ウェブ上で公開している。

4. IPAの前ですべての言語は平等

5. 音韻論と音声学



置かれる条件によって「形」や「音」は異なるが抽象化して一つにまとめることができる。

● 「パピ」は何と言っても「パピ」



日本語を母語としない外国人が、「パピ」を以下のように発音する場合がある。

[papal] [pʰapal] [papʰal] [pʰapʰal] [pʰapal] [papʰal] [pʰapʰa]...

しかし、日本語においては[p]と[pʰ]と[p̚]という音声学的な単位を用いて区別せず、音韻論における一つの音素、/p/として認識する。一方、他の言語では[p]と[pʰ]と[p̚]が区別される場合がある。

韓国語の[pʰal] (腕)と[pal] (足)

病院に行って「腕([pʰal])が痛い」と言うか、それとも「足([pal])が痛い」と言うかによって、医者が診るところは違ってくる。

6. 言語学徒募集中



タビオカは「飲む」のか「食べる」のか、それとも「吸う」のか。また、「タビオカ」を摂取することを「タる」「タビオる」「タビオカる」ではなく、「タビる」と言うのはなぜか?



「チーズバーガーセット」や「マイクロソフト」のような外来語の場合、多くが後ろから3つ目のところに、アクセントが置かれる(-3の法則)。それはなぜか?



「オジロワシ」においては白の「し」が「じ」に変わるいわゆる連濁が起こるが、「モンシロチョウ」においてはそのような現象が起こらない。それはなぜか?



こんなこと、考えたことがありましたら、あなたは言語学に素養があります。至急ご連絡下さい。

